

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護職員初任者研修講座VI(こころとからだのしくみ・認知症の理解・障害の理解) Care staff beginner's training lectureVI		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護職員初任者研修ユニット必修)	介護職員初任者研修講座Ⅰ～Ⅴを受講し合格していること
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
介護職員初任者研修講座Ⅰ～Ⅴ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
介護職員初任者研修講座Ⅶ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
久保由佳、石川幸子	福祉棟2階	授業以外の時間		授業中に指示します
授業の概要				
「介護職員初任者研修講座Ⅵ」(こころとからだのしくみと生活支援技術、認知症の理解、障害の理解)では、利用者個々のニーズを的確に把握し、求められる支援を導き実践するための思考過程である「介護過程」を学ぶ。また、認知症と障害を理解するための学習を行う。				
授業の目標				
①介護過程を行う目的と、介護過程の構成要素を列挙できるようにする。 ②紙上事例を通して、介護過程の一連の流れを説明できるようにする。 ③認知症を引き起こす疾患を、列挙できるようにする。 ④認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)の特性を踏まえた、介護の原則について説明できるようにする。 ⑤障害の概念とICFを説明できるようにする。				
授業の方法				
「介護過程」は講義と演習の組み合わせで行う。はじめに介護過程の構成要素や一連の流れを説明し、事例を使って各自が介護計画を立案できるように個人ワークを行う。「認知症の理解」及び「障害の理解」は講義中心に進める。				
学習の成果(学習成果)				
①介護過程の流れをふまえて利用者に必要なニーズを考え、ニーズの充足に向けた計画の立案ができる。 ②認知症がある利用者に対して理解に努め、尊厳を保持した基本的な接し方を身につけることができる。 ③障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について述べるができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法・演習時の注意など) 障害の理解① 障害の基礎的理解(障害の概念とICF、障害者福祉の基本理念)			(久保)
第2回目	障害の理解② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、支援の基礎的知識① 身体障害			(久保)
第3回目	障害の理解③ 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、支援の基礎的知識② 身体障害			(久保)
第4回目	障害の理解④ 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、支援の基礎的知識③ 知的障害			(久保)
第5回目	障害の理解⑤ 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、支援の基礎的知識④ 知的障害、精神障害			(久保)
第6回目	障害の理解⑥ 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、支援の基礎的知識⑤ 精神障害			(久保)

第7回目	こころとからだのしくみと生活支援技術 介護過程の基礎的理解① 介護過程の目的 構成要素 (石川)
第8回目	こころとからだのしくみと生活支援技術 介護過程の基礎的理解② 介護過程の展開 (石川)
第9回目	こころとからだのしくみと生活支援技術 介護過程の基礎的理解③ 介護過程の展開 (石川)
第10回目	こころとからだのしくみと生活支援技術 介護過程の基礎的理解④ 介護過程の展開 <課題提出 授業終了時> (石川)
第11回目	認知症の理解① 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念 (石川)
第12回目	認知症の理解② 医学的側面から見た認知症の基礎知識 (脳のしくみ、記憶のしくみ) (石川)
第13回目	認知症の理解③ 医学的側面から見た認知症の基礎知識 (認知症を引き起こす疾患とその病態、ケア) (石川)
第14回目	認知症の理解④ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (生活障害、心理・行動の特徴) (石川)
第15回目	認知症の理解⑤ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (利用者への対応、家族への支援) (石川)
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。
成績評価の方法と基準	
評価の領域	割合 評価の基準
授業参加態度	20% 評価基準Sは、授業の準備(テキスト、配布資料等)が整い、授業に集中している。ディスカッション場面では他者の話に耳を傾けつつ、自らの意見も積極的に述べる事ができる。
レポート	20% 介護過程の展開で評価する。事例の利用者をイメージし、必要なニーズが抽出できていること。利用者の視点での目標設定ができ、目標達成に向けた支援が考えられていることを評価の視点とする。
調査報告書	
小テスト	
試験	60% 論述、記述式の試験を行い評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容(態度含む)	
その他	
教科書と参考図書	
介護職員初任者研修テキスト／中央法規(介護初任者研修講座Iと同じ)	
履修上の留意点・ルール	
講義・グループ演習に積極的に参加し、学びを共有してほしい。机上に携帯電話、飲み物など教材以外のものを置くことは禁止する。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。	